







































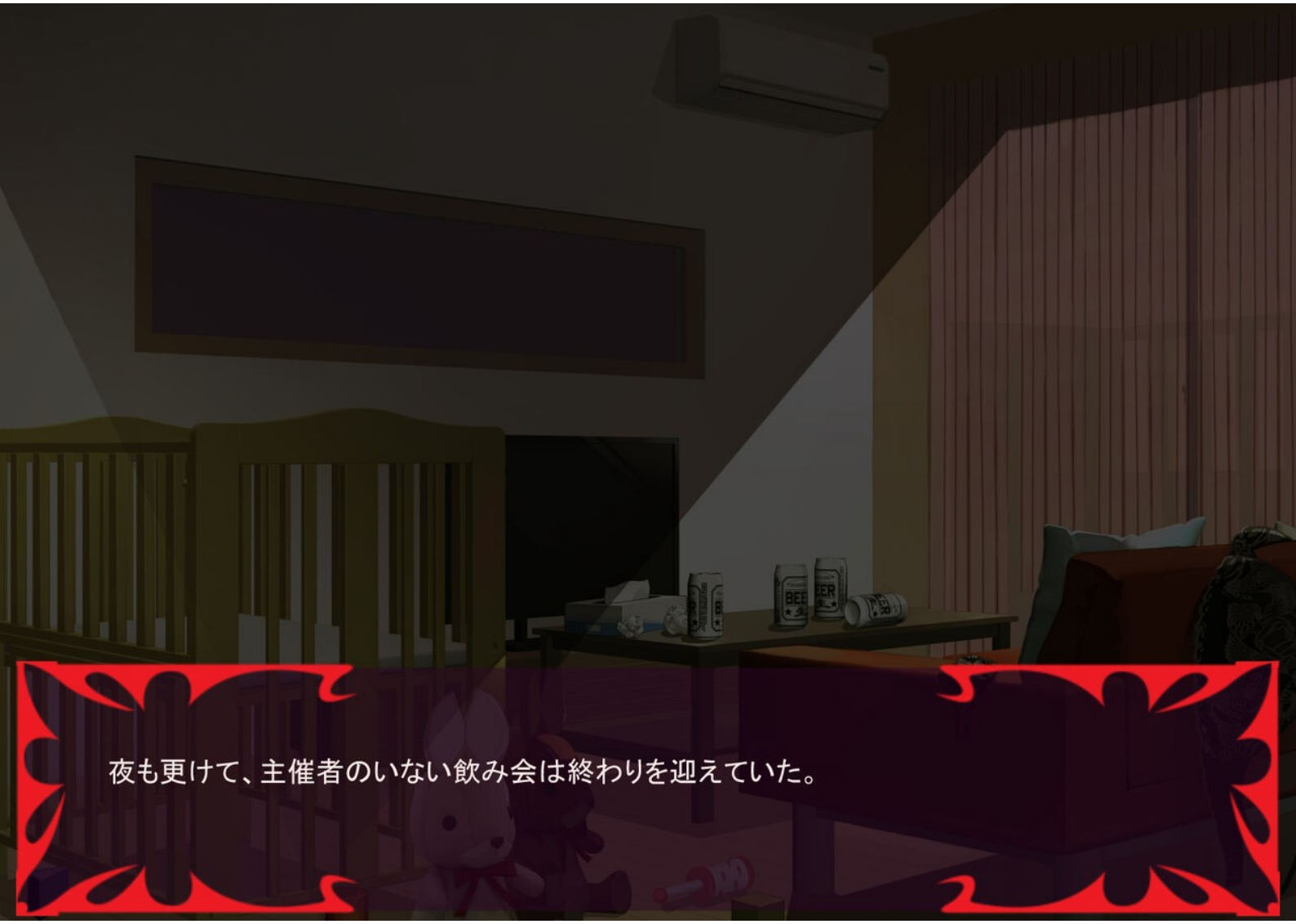



23時45分。基子の住むマンション。


神代絵里奈
「くかぁ～･･･くかぁ～･･･････zzz」


児玉ひかり
「絵里奈さん。もしも〜し絵里奈さ〜ん。
寝るならお布団の方で寝てください。風邪ひきますよ〜」


神代絵里奈
「‥んぁ‥‥むにゃむにゃ‥‥。
‥基子のヤロウは‥いつ帰ってきやがんだ‥‥くかぁ〜‥‥くかぁ〜‥‥‥‥zzz」


夜も更けて、主催者のいない飲み会は終わりを迎えていた。


黒瀬由羅
「それじゃ、私はそろそろ」


児玉ひかり
「あ、由羅さんお帰りですか？」


黒瀬由羅
「ええ。明日も朝から仕事なの。
隊長さんに会えなかったのは残念だったけど」


児玉ひかり
「そうでしたか・・・。
あ・・でもまたいつでも来てくださいね。基子さんもお喜びになるでしょうし」

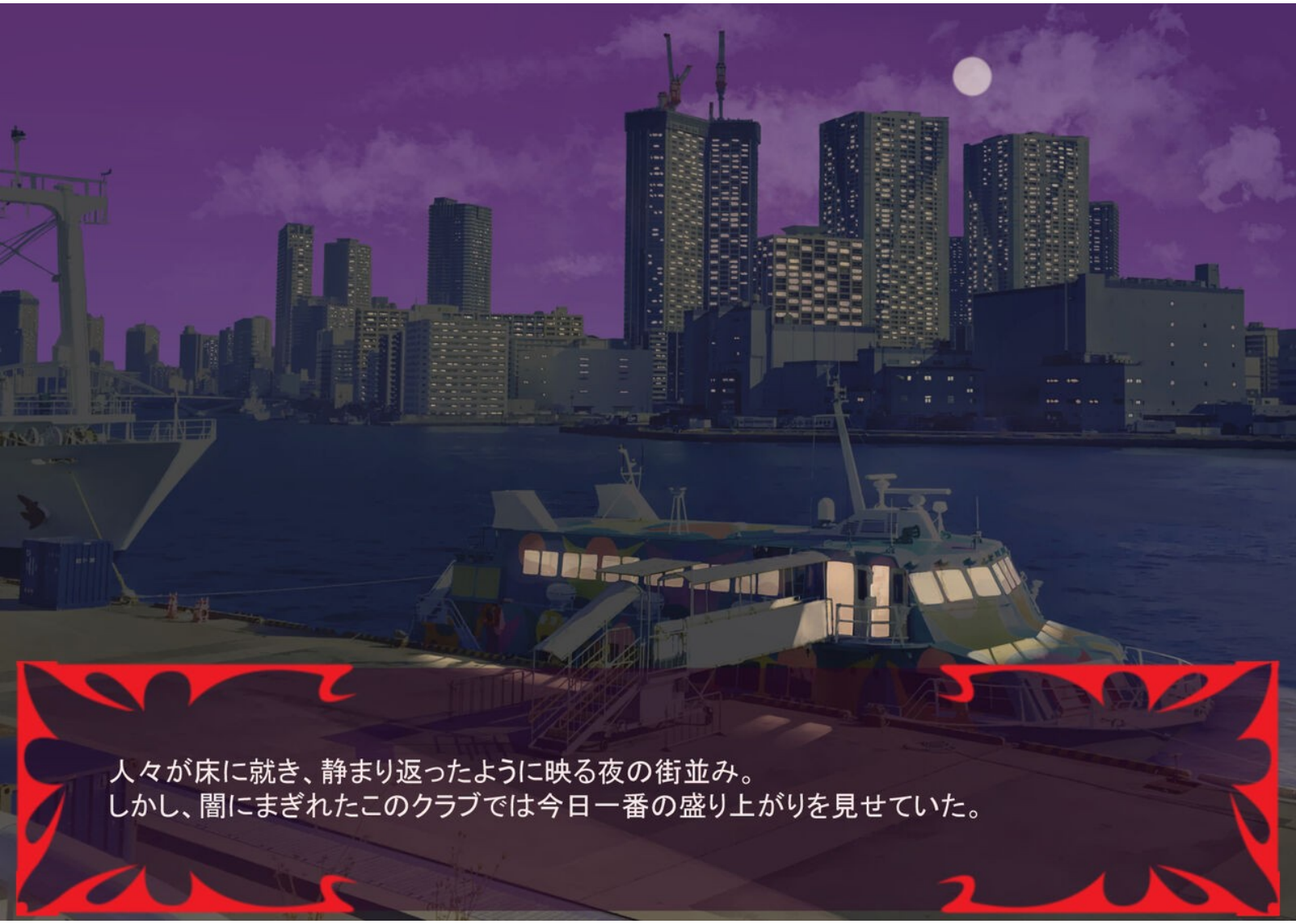

黒瀬由羅
「そう‥ね。それじゃ隊長さんによろしく」


児玉ひかり
「はい」

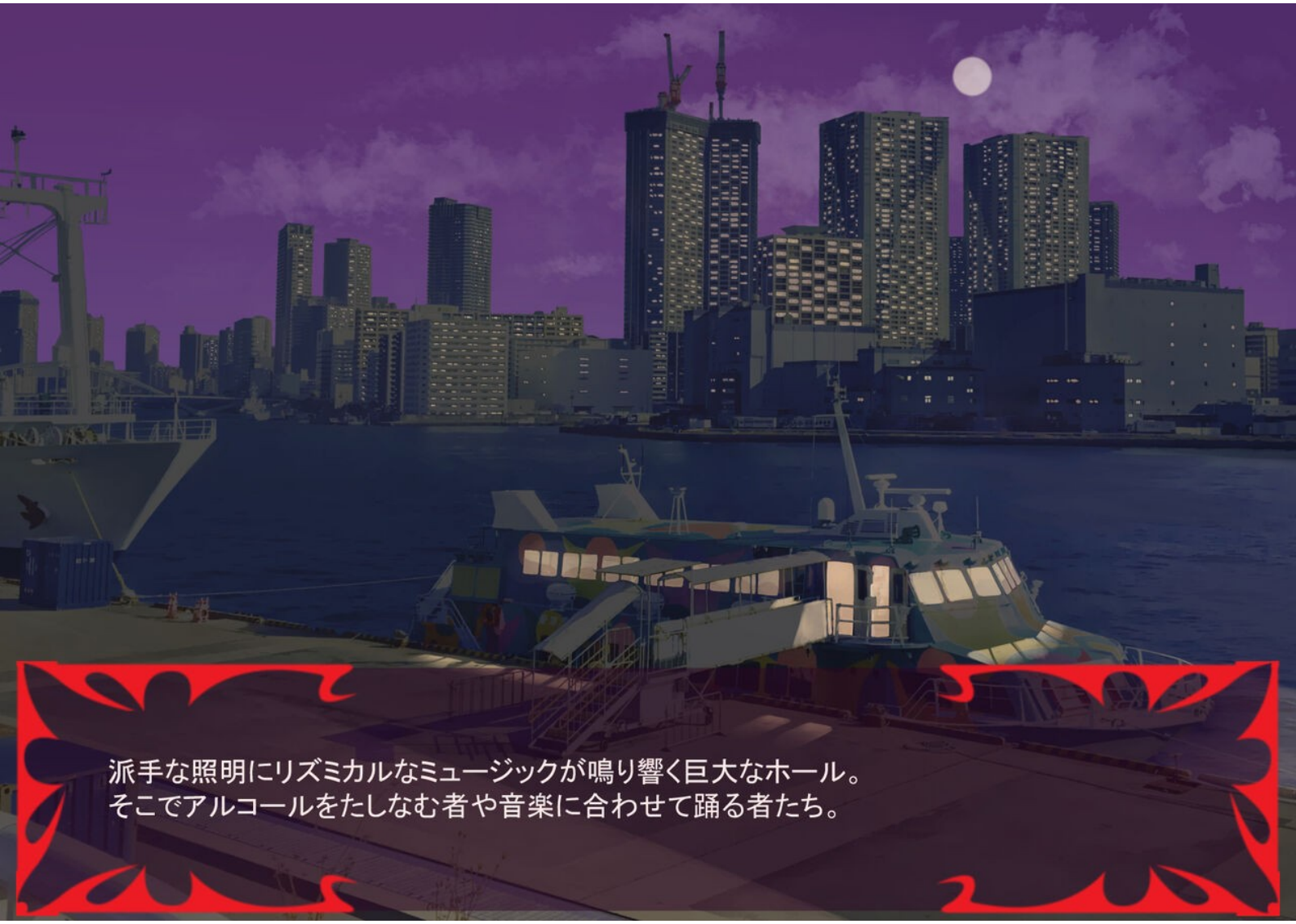

神代絵里奈
「‥なぁ～んだよ由羅‥むにゃむにゃ‥‥。
‥もうちょっとゆっくりしてけって‥‥くかぁ～‥‥くかぁ～‥‥‥‥zzz」


児玉ひかり
「ほら、絵里奈さんはお布団に行きますよ～」

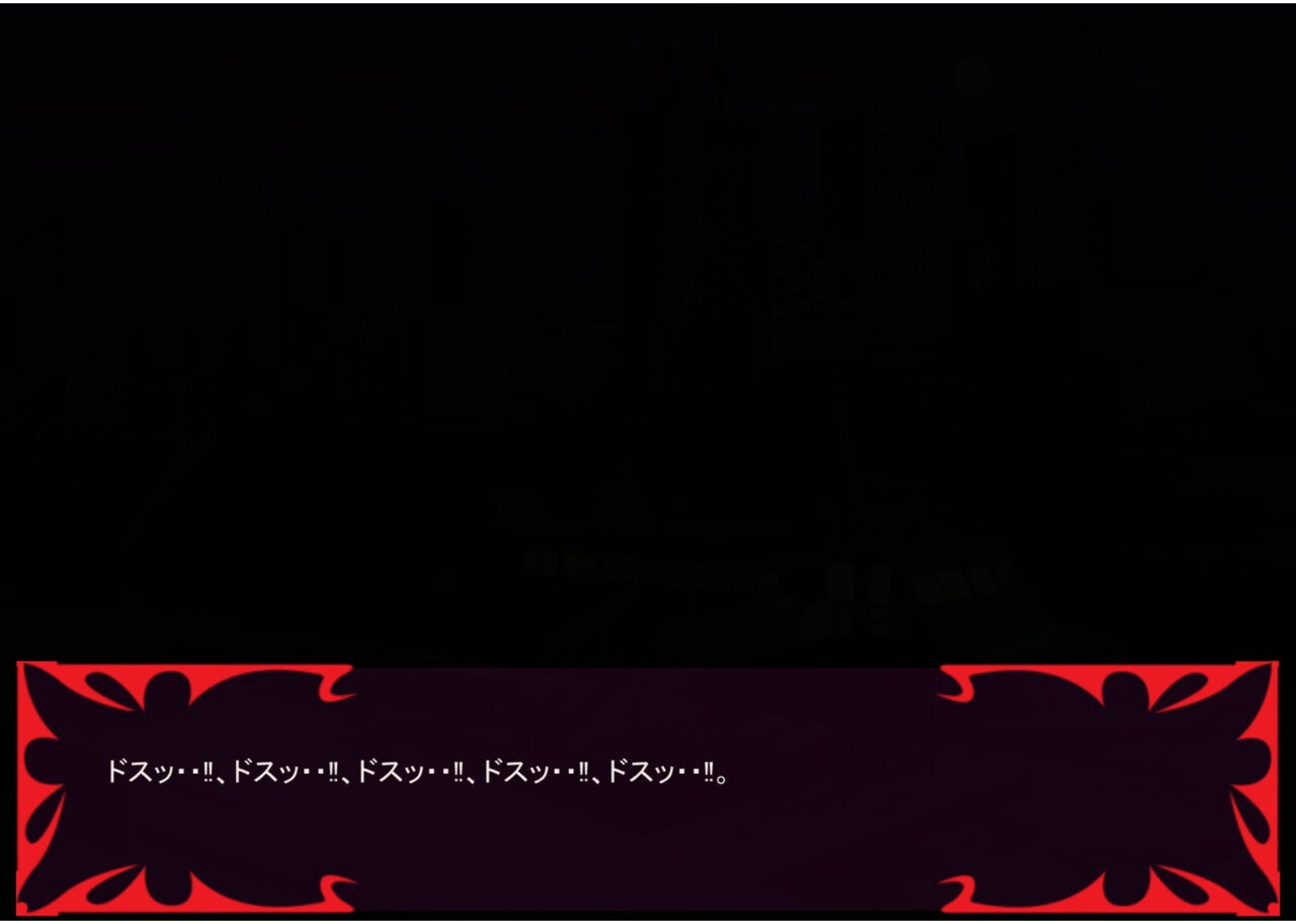

23時50分。怪しげな高級クラブ。


人々が床に就き、静まり返ったように映る夜の街並み。
しかし、闇にまぎれたこのクラブでは今日一番の盛り上がりを見せていた。


ズンチャ♪、ズンチャ♪、ズンチャ♪、ズンチャ♪。


派手な照明にリズミカルなミュージックが鳴り響く巨大なホール。
そこでアルコールをたしなむ者や音楽に合わせて踊る者たち。


そしてそこから、個室に姿を消していく男女も少なくない・・・・・。


ドスッ‥‼、ドスッ‥‼、ドスッ‥‼、ドスッ‥‼、ドスッ‥‼。


Yカップの女便利屋
「あぁぁ‥っ‼、あっ‥あぁぁっ‼、あぁん‥っ‼、あ‥っ‼、あ‥っ‼、あ‥っ‼、あぁぁ‥っ‼」


腕利きの情報屋
「はぁっ‥！、はぁっ‥！、はぁっ‥！、はぁっ‥！、はぁっ‥！」


ジュブ‥ッ！、ジュブ‥ッ！、ブジュ‥ッ！、ブチュ‥ッ！、ジュブ‥ッ！、ブジュ‥ッ！。


魔夜基子
「ふぁああ‥っ‼、ああ‥っ‼、はぁ‥ぁ‥ああ‥っ‼、ああ‥っ‼、ああ‥っ‼、ああん‥っ‼」


亀井健三
「ふぅ‥ああ‥っ！、はぁ‥っ！、はぁ‥っ！、はぁ‥っ！、ああ‥っ！」


各個室の中でも、注目すべき人物がこの2人。
Yカップの超爆乳エージェント【魔夜基子】と小柄で好き者の情報屋【亀井健三】だ。


陸軍の中佐として、凄腕のエージェントとして、
数々の修羅場を乗り越えてきた基子が、
このような男に抱かれる姿など誰もが想像すらしないことだ。


だが、亀井と一度でも体を重ねたことのある女性であれば、
この状況をすぐに理解できるだろう。


亀井健三
「はぁ‥っ！、はぁ‥っ！、はぁ‥っ！、どうだぁ⁉、あっしのモノは奥まで届いてやすかぁ？」


魔夜基子
「ああん‥っ‼、あ‥っ‼、あああ‥っ‼、‥来てる‥っ‼、
はあ‥ぁっ‼、お腹まで‥硬いのズンズン来てる‥っ♥‼、あ‥っ‼、あああ‥ぁっ‼」


亀井健三
「ああ‥ったく、この反応‥たまらねぇなぁ‥‥。‥そら‥ッ!!、そんなに奥がいいのかっ?!」


魔夜基子
「あああぁ‥ぁっ‼、イイ‥っ！。
んあ‥ぁああっ‼、硬いのでゴリゴリ擦られて‥奥突かれるの良すぎるぅ‥っ‼」


亀井健三
（ゾクゾク・・ッ!!）


亀井健三
「へへ‥、ならマゾ女らしく‥いやらしくイッてみろっ！」


パンッ‥‼、パンッ‥‼、パンッ‥‼、パンッ‥‼、パンッ‥‼、パンッ‥‼。


魔夜基子
「あぁぁ‥ぁっ‼、あぁん‥っ‼、あぁ‥っ‼、あぁ‥っ‼、あぁぁ‥ぁっ‼、あぁん‥っ‼、あぁ‥っ‼、
あぁ‥っ‼、あぁぁ‥ぁっ‼、あぁん‥っ‼」


亀井健三
「はぁ‥っ‼、はぁ‥‼、はぁ‥っ‼、はぁ‥っ‼、はぁ‥っ‼」


魔夜基子
「はぁん‥っ‼、あぁぁ‥っ‼、あぁぁ‥っ‼、深い‥っ‥んぁぁ‥っ‼、あぁん‥っ‼、あぁん‥っ‼、
ヤバイこれ‥‥あぁあ‥イキそ‥ッ！‥あぁあぁ‥っ‼、あ‥っ‼、あ‥っ‼、あぁあぁ‥ぁっ‼」


亀井健三
「はぁ‥っ‼、はぁ‥っ‼、あぁぁ‥イケこの‥っ！、
ああ‥‥ぁっ！、はぁ‥っ‼、はぁ‥っ‼、はぁ‥っ‼、イケ‥ッ‼、イケ‥ッ‼、イケェ‥ッ‼」


ブジュゥ‥ッ!!、ジュブ‥ッ!!、ズブ‥ッ!!、ズブ‥ッ!!、ジュブ‥ッ!!、ブジュゥ‥ッ!!、ブジュゥ‥ッ!!。


魔夜基子
「ああん‥っ‼、あぁ‥つあああ‥っ‼、ああ‥っ‼、あ‥っ‼、あああ‥ぁっ‼、
イグ‥ッ‥‥あああぁ‥ッ‼、イグイグ‥っ‼。
あ‥っ‼、あ‥っ‼、あ‥っ‼、あ‥っ‼、んあああああああぁ‥ぁっ‼」


亀井健三
「はぁっ‥‼、はぁっ‥‼、はぁっ‥‼、はぁっ‥‼、はぁっ‥‼、はぁっ‥‼、はぁっ‥‼、
くっぅうううう‥っ‼‥あああああああああああぁ‥ぁっ‼」


ビュルルルルルルルルルルルゥウウウ‼。


魔夜基子
「んぁあああああああああああぁーーーっ‼」


ガクガクガクガク・・ッ!!。


基子はシーツを強く握りしめながら体を激しく衝動させる。


ドク・・ッ!!、ドク・・ッ!!、ドクドク・・ッ!!。


亀井健三
「はぁ・・・・・・ぁ・・・・・くぅ・・・・ぁあ・・・・ぁ・・‼」


魔夜基子
「あぁ‥‼‥‥‥くぅ‥‥‥‥‥あぁ‥‥あ‥‥‥‥‥‥あっ‼‥‥‥はぁ‥‥‥‥‥‥‥あ‥‥あっ‼」


亀井健三
「‥はぁ‥‥はぁ‥‥はぁ‥‥はぁ‥‥ふぅ‥‥‥」


亀井は射精を終えてすぐ、今だ絶頂の快感に悶え続ける基子に対し・・。


グイッ！。


亀井健三
「ほら‥‥はぁ‥‥はぁ‥‥、
あっしの中出しでイッちまってる姉さんのドスケベ面‥よぉく見せてくだせぇ‥‥」


魔夜基子
「へはぁ‥っ‼‥‥‥‥あぁ‥‥‥‥‥あぁ‥‥あっ‼‥‥‥‥‥‥あ‥‥‥‥‥あ‥‥‥‥‥‥‥あぁ‥‥あっ‼」


ビクン‥ッ！、‥ビク‥ビクン‥ッ！‥ビク‥‥‥ビク‥‥‥‥。


亀井健三
「おぅ･･･イッてるイッてる･･･。
気持ち良くイキ過ぎたせいで中々帰ってこれねぇみてぇですなぁ･･」


涎を垂らしながらしつこく痙攣し続ける基子の体。


魔夜基子
（何か‥変‥‥。イケばイクほど‥絶頂から戻れなくなってる‥‥）


亀井健三
「このまますぐに突きまくったら、姉さんはどうなっちまうんでしょうねぇ・・？」


魔夜基子
「・・・・・・・・・・・・・つあ‼・・・・・・・・・あ・・・・・・・・・・・・・・あ・・・・・・・・・・あ・・あつ‼」


魔夜基子
（ゾクリッ･･･）


亀井健三
「へへ・・、あっしがもっと姉さんの体をいやらしくしてあげやすよ・・・」


亀井がそう言うと･･･。


パンッ‥!!、パンッ‥!!、パンッ‥!!、パンッ‥!!、パンッ‥!!、パンッ‥!!。


魔夜基子
「あああぁ‥っ‼、あぁ‥っあああ‥っ‼、あああぁ‥っ‼、あああん‥っ‼、あああぁ‥っ‼、あああぁ‥っ‼、
あああ‥ぁ‥っ‼、んぁああ‥っ‼」


亀井健三
「はぁ‥っ‼、はぁ‥っ‼、はぁ‥っ‼、はぁ‥っ‼、はぁ‥っ‼、はぁ‥っ‼」


基子の衝動が収まるのを待たず、再び腰を激しく打ち付け始めた亀井。


亀井健三
「はぁ‥っ‼、はぁ‥っ‼、はぁ‥っ‼、そら‥ッ！‥狂っちまいそうだろ‥⁉」


魔夜基子
「ああん‥っ‼、あああ‥っ‼、ああ‥ああん‥っ‼、だめ‥っ‼、んあぁ‥っ‼、はあぁ‥っ‼、
あああああ‥っ‼、こんなのっ‥おがしくなっぢゃう‥‼」


亀井健三
「だが‥それがイイんだろ‥⁉」


魔夜基子
「んぁあああ‥っ‼、あああぁ‥っ‼、あぁ‥‼、あぁ‥‼、イイ‥っ！‥あああ‥イイィ‥っ‼、
あああ‥イイイイィ‥ッ‼。あぁぁ‥ぁ‥っ‼、あぁぁ‥っ‼、あぁぁん‥っ‼」


ブジュゥ‥ッ!!、ブジュゥ‥ッ!!、ブジュゥ‥ッ!!、ブジュゥ‥ッ!!、ブジュゥ‥ッ!!、ブジュゥ‥ッ!!。


魔夜基子
「あああぁ‥っ‼、んああぁ‥っ‼、あぁん‥‼、あぁん‥‼、あぁん‥‼、あああぁ‥っ‼、ああ‥っ‼、
んああ‥ぁっ‼、あああん‥っ‼、あああぁ‥っ‼」


射精したままの精液が基子の中でかき回され、
結合部からはブジュブジュと下品な音が漏れ出ている。


亀井健三
「はぁ‥っ‼、はぁ‥っ‼、はぁ‥っ‼、こんな女‥一生萎える気がしねぇぜ‥っ‼。
そら‥ッ！分かるか？‥射精したばっかなのにずっとガチガチだろ‥っ⁉」


魔夜基子
「あぁん‥っ‼、あぁん‥っ‼、あぁん‥‼、分かる‥ッ！ガチガチおちんちん‥凄すぎる‥っ♥‼
あぁぁ‥っ‼、あぁん‥‼、あぁん‥っ‼、凄すぎて‥‥ああ‥ぁっ‼、あぁぁ‥っ‼、また‥っ‼」


亀井健三
「はぁ‥っ‼、はぁ‥っ‼、はぁ‥っ‼、イキたいのか⁉」


魔夜基子
「あぁぁ‥っ‼、あぁ‥っあぁん‥っ‼、イキたい‥っ！‥あああぁぁ‥っ‼イギたいれす‥っ‼」


亀井健三
「そんじゃあ・・言うことは分かるな・・?!」


魔夜基子
「はい‥っ‼、あああぁ‥っ‼、ああん‥っ‼、
亀井様のデカ過ぎガチガチおちんちんで私の中をもっとかき回してください‼
突いて‥突いて‥突いて‥突きまくってイガせでください‥っ‼」


亀井健三
（ゾクゾクゾクッ!!）


亀井健三
「へへ‥どうしようもねぇマゾ牛女だぜ‥！、
よぉし‥ついでに俺の出来たてザーメンも注いでやるからな‥ッ！」


魔夜基子
「ありがどうございばす‥っ♥‼、あああぁ‥っ‼、あああ‥っ‼、あああぁん‥っ‼、
まだ‥っ‥濃いのいっぱいぐださい‥っ♥‼」


魔夜基子
（もう‥このままどうなったっていい‥‼）


パンッ‥‼、パンッ‥‼、パンッ‥‼、パンッ‥‼、パンッ‥‼、パンッ‥‼、パンッ‥‼、パンッ‥‼。


魔夜基子
「あぁぁん‥っ‼、あぁぁん‥っ‼、あぁぁぁ‥っ‼、あぁぁ‥っ‼、あぁぁ‥っ‼、あぁぁん‥っ‼、
あぁ‥っ‼、あぁぁぁ‥っ‼、あぁん‥っ‼、あぁぁん‥っ‼、あぁぁ‥ぁっ‼」


亀井健三
「はぁっ‥‼、はぁっ‥‼、はぁっ‥‼、はぁっ‥‼、はぁっ‥‼、はぁっ‥‼、はぁっ‥‼」


魔夜基子
「あああぁ‥っ‼、あああぁ‥っ‼、あああぁ‥ぁっ‼、あああぁん‥っ‼、あああぁ‥ぁぁ‥っ‼、飛ぶ‥っ‼、
あああぁ‥っ‼、あああぁ‥ぁぁ‥っ‼、あああぁん‥っ‼、あああぁ‥ぁぁ‥意識飛んじゃう‥っ‼」


亀井健三
「いいぞ‥っ！、‥飛べ‥っ‼‥あぁぁ‥ぶっ飛べ‥っ‼‥乳吹きながらぶっ飛べ‥っ‼。
はぁっ‥‼、はぁっ‥‼、はぁっ‥‼、はぁ‥っ‼、あああああああぁ‥‥ぁっ‼」


パンッ‥‼、パンッ‥‼、パンッ‥‼、パンッ‥‼、パンッ‥‼、パンッ‥‼、パンッ‥‼、パンッ‥‼。


魔夜基子
「あぁぁん‥っ‼、あぁぁん‥っ‼、あぁぁん‥っ‼、あぁぁ‥っ‼、あぁぁ‥っ‼、あぁぁん‥っ‼、
あぁぁ‥っ‼、あぁぁぁ‥ぁっ‼、あああああああああ‥ぁっ‼」


びゅうううううううううううううう――――ッ!!。


魔夜基子
「んぁあああああああああぁーーーっ!!」


亀井健三
「ぐぁあああああああああああ――――っ!!」

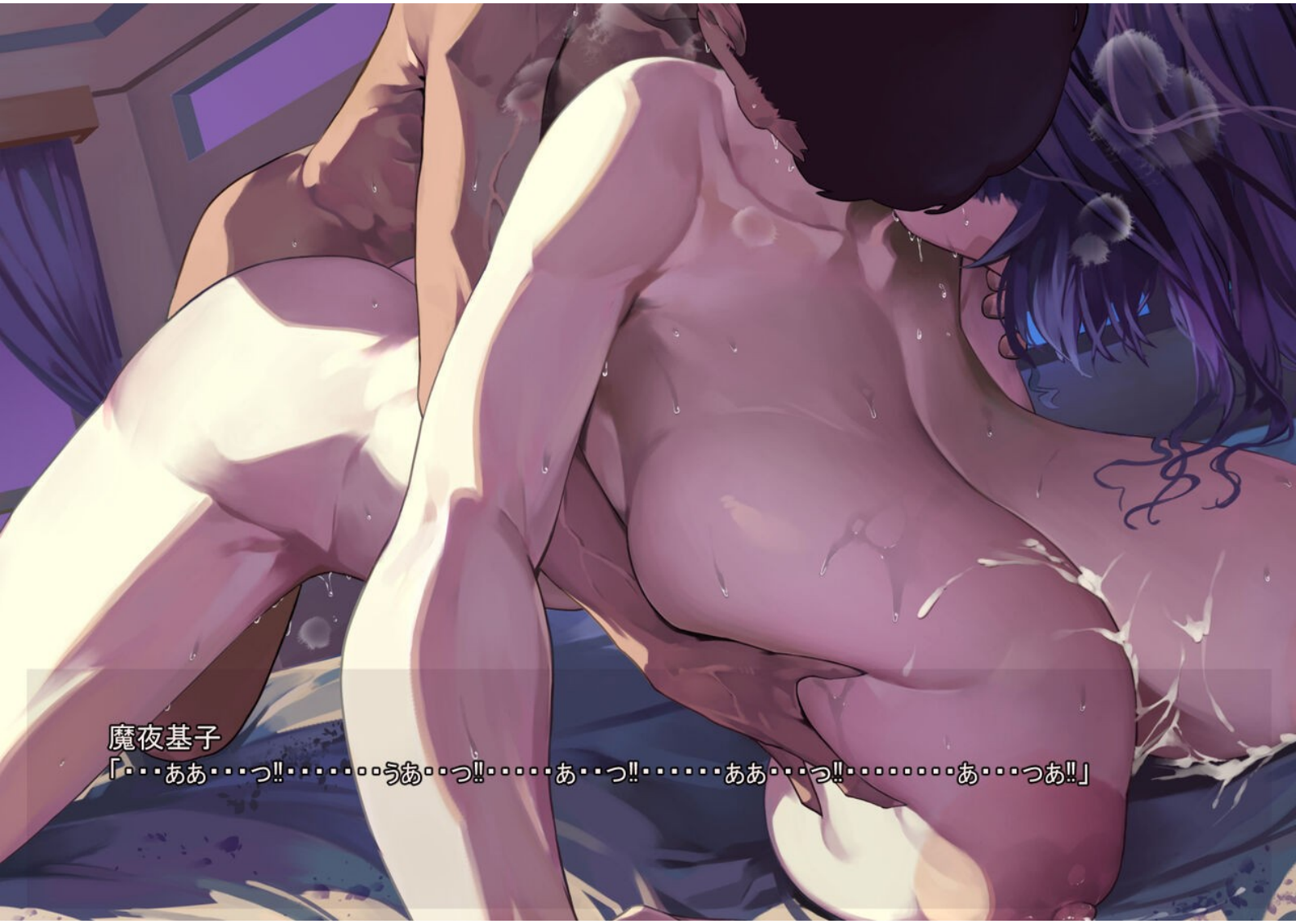

ドクドクドク・・ッ!!。

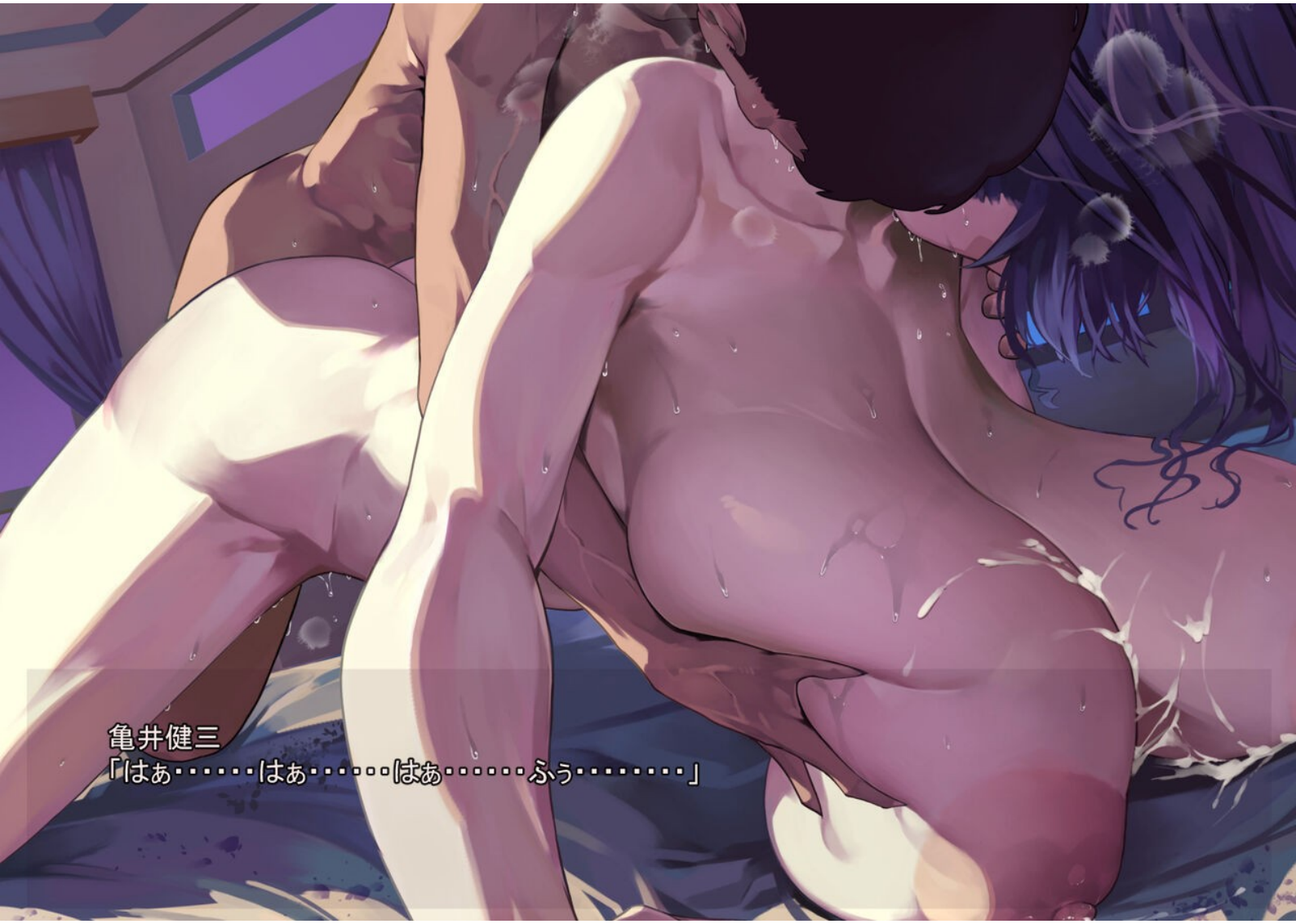

新鮮な濃厚精液が継ぎ足され、基子の中を埋め尽くす。

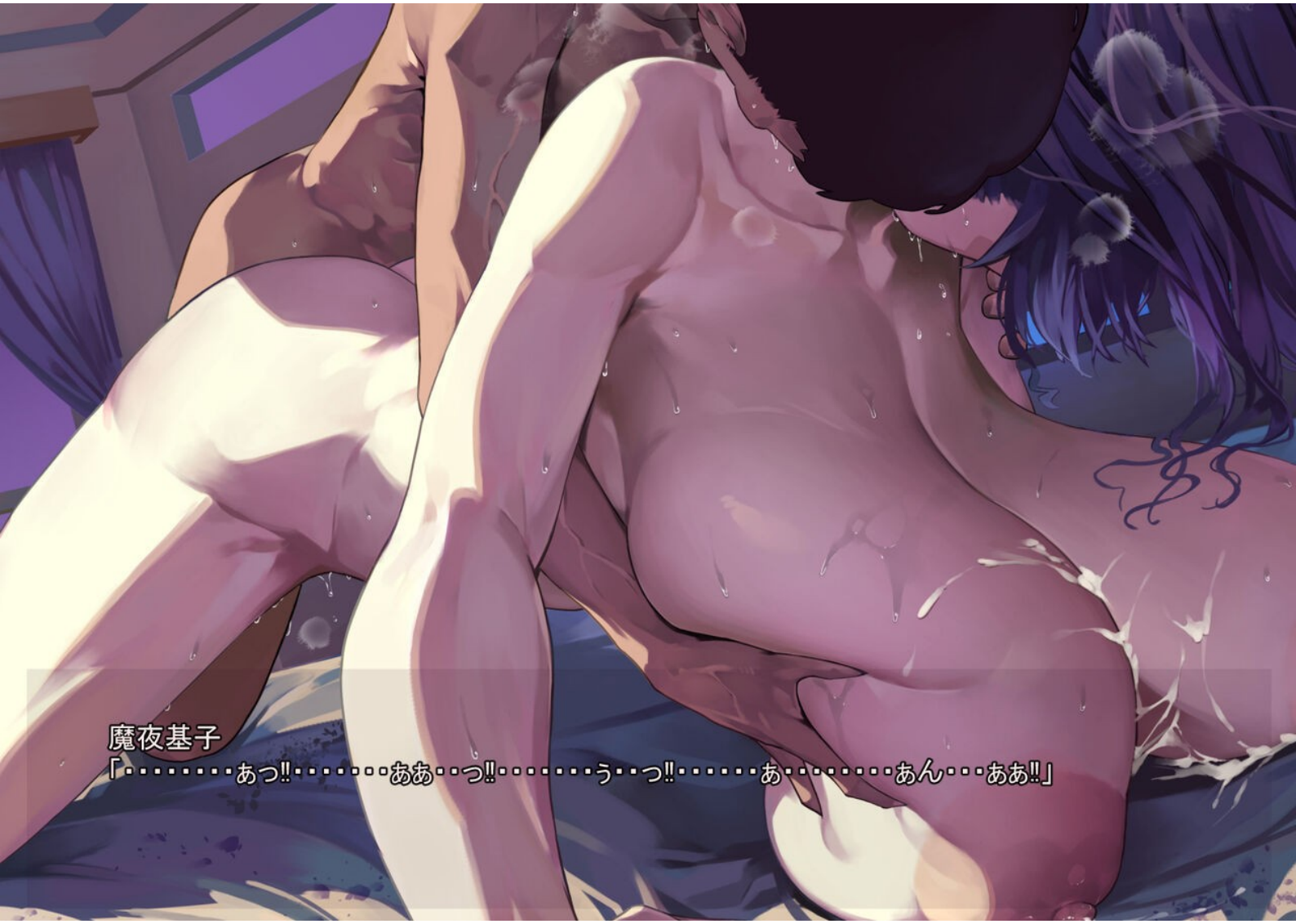

魔夜基子
「・・・ぁあ・・・っ‼・・・・・・・ぁあ・・っ‼・・・・・うぁ・・っ‼・・・・・・あ・・・っ‼・・・・・・・・ぁあ・・・っぁ‼」

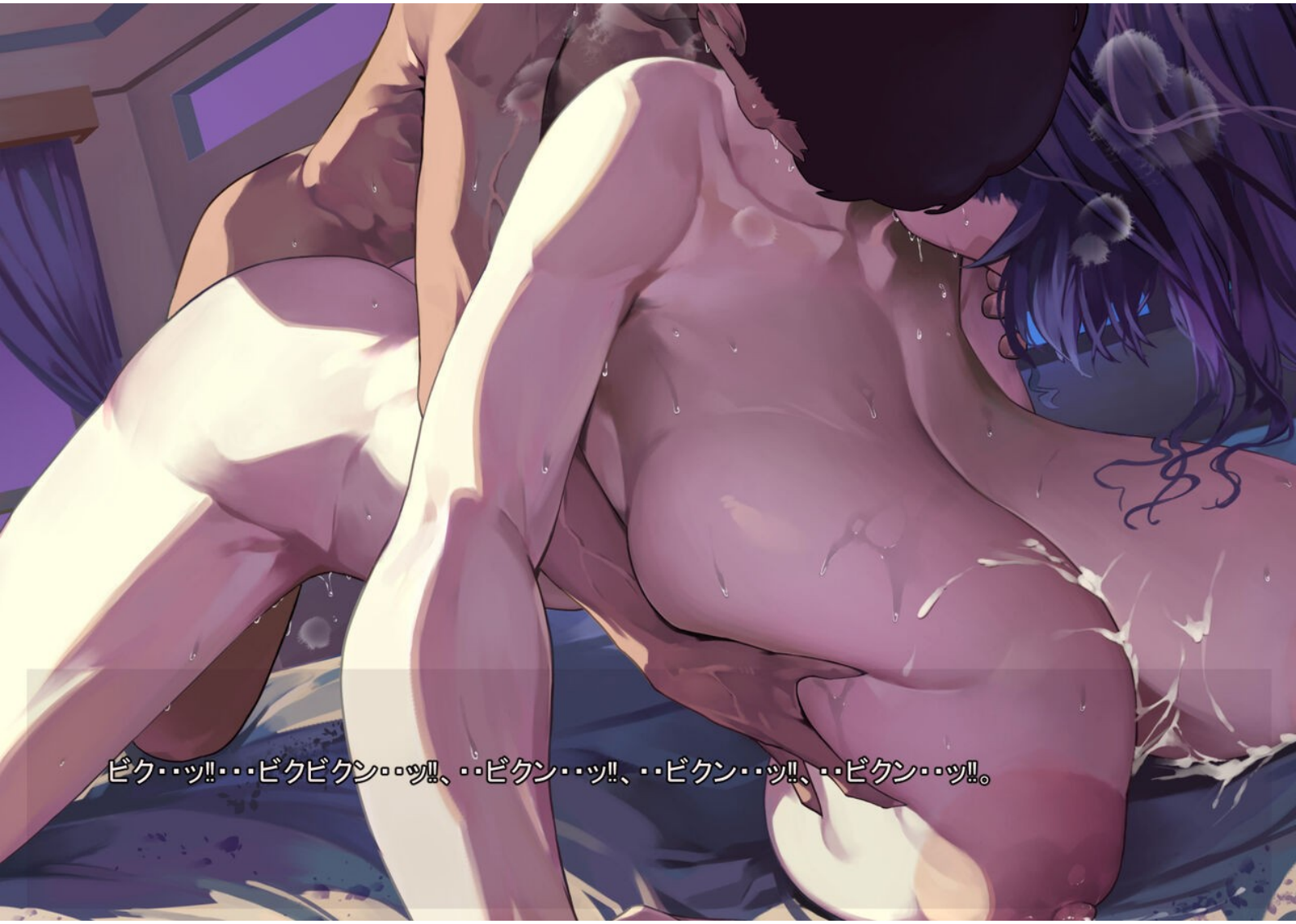

亀井健三
「‥はぁ‥‥はぁ‥‥はぁ‥‥はぁ‥‥はぁ‥‥はぁ‥‥‥」


ビクン・・ッ!!・・・ビクン・・ッ!!、・・ビクビク・・ッ!!、ビクン・・ッ!!、ビク・・ビクン・・ッ!!。


魔夜基子
「・・・あぁ・・・っ‼・・・・・・・うぁ・・つ‼・・・・・あ・・つ‼・・・・・・あぁ・・・っ‼・・・・・・・・あ・・・つぁ‼」


亀井健三
「はぁ……はぁ……はぁ……ふぅ……」


魔夜基子
「・・・・・・・・あっ‼・・・・・・・・ああ・・っ‼・・・・・・・・う・・っ‼・・・・・・・あ・・・・・・・・・あん・・・あぁ‼」

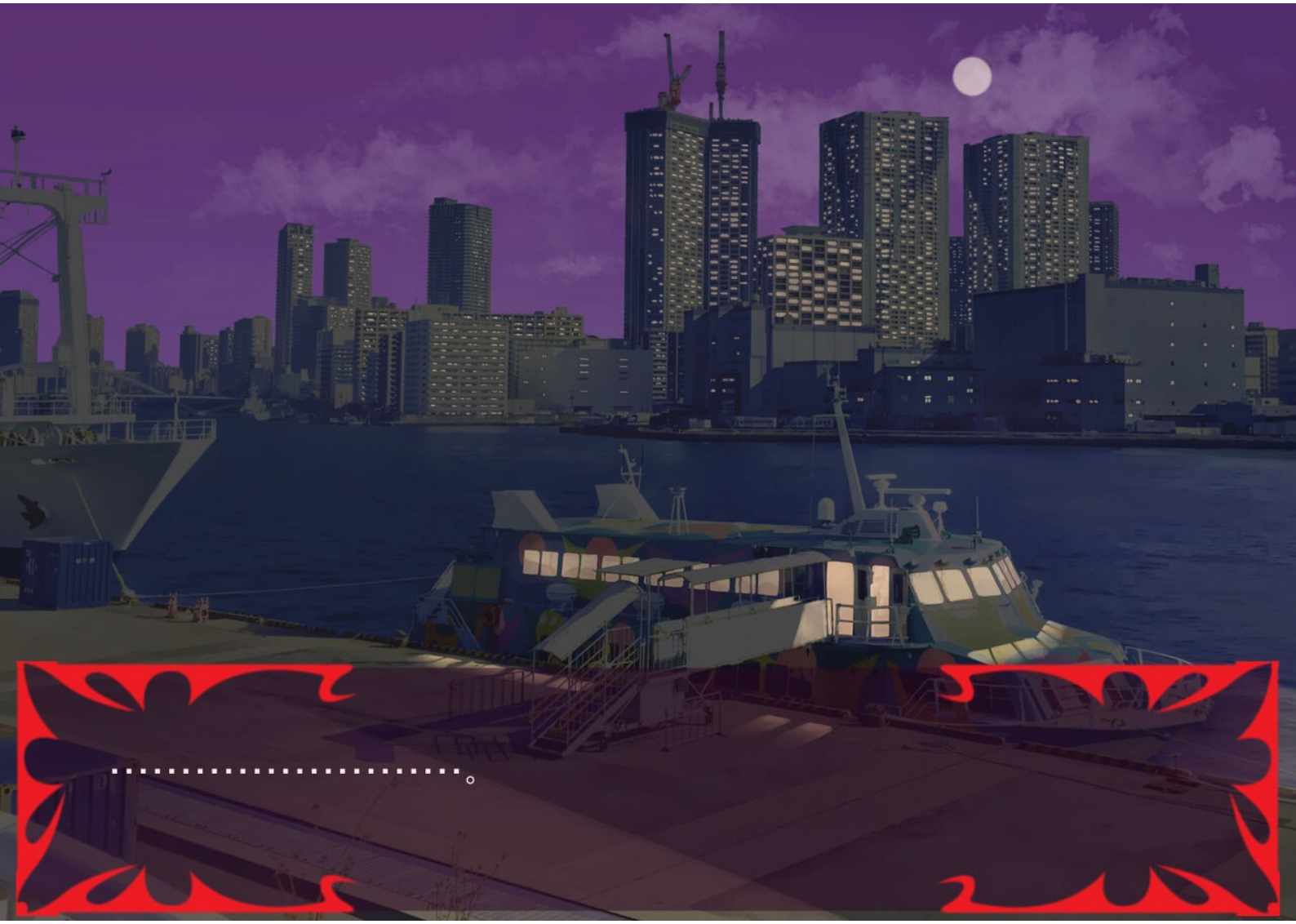

ビク‥ッ‼‥‥ビクビクン‥‥ッ‼、‥ビクン‥‥ッ‼、‥ビクン‥‥ッ‼、‥ビクン‥‥ッ‼。

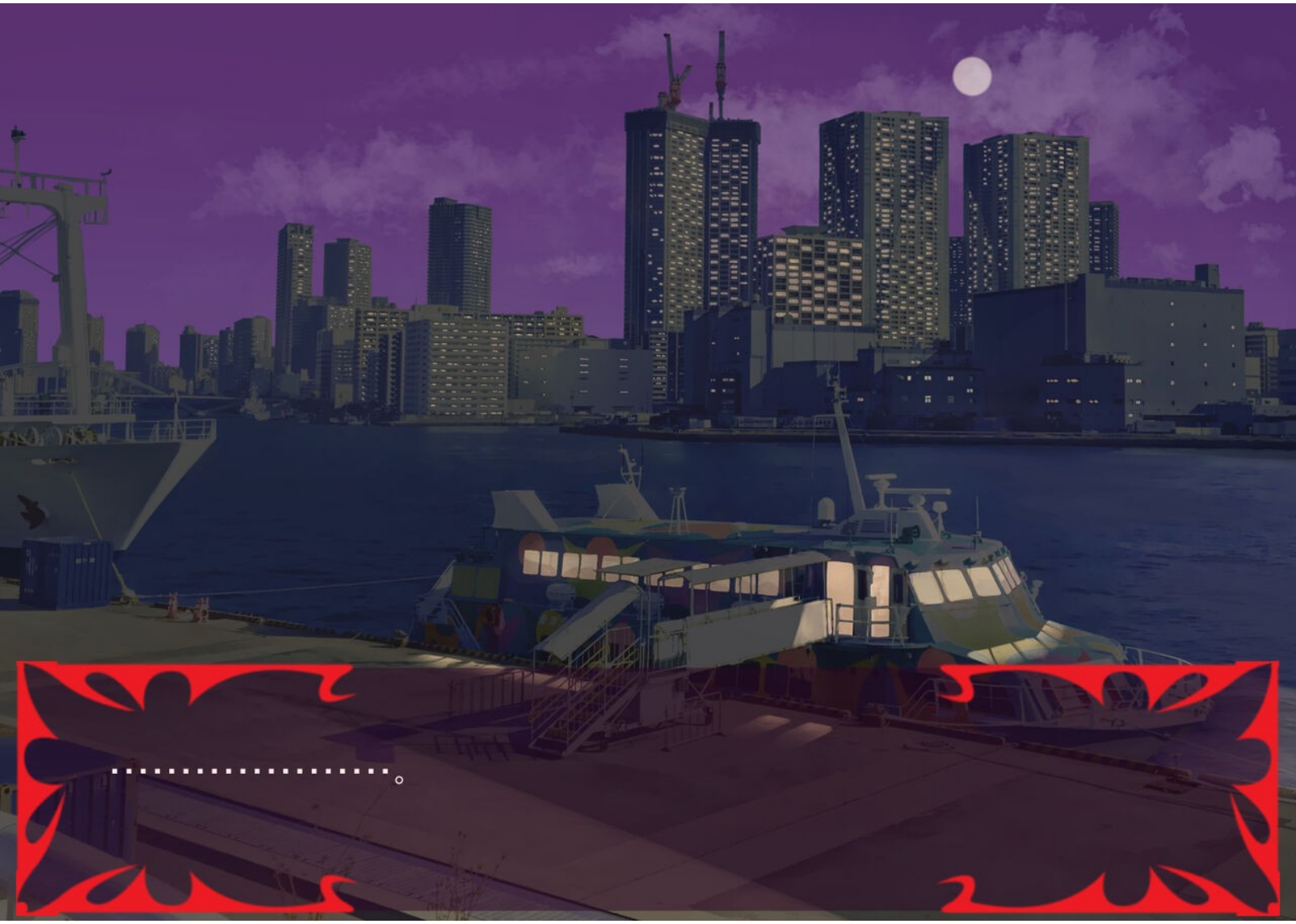







ズンチャ♪、ズンチャ♪、ズンチャ♪、ズンチャ♪・・・。






zzz·····。







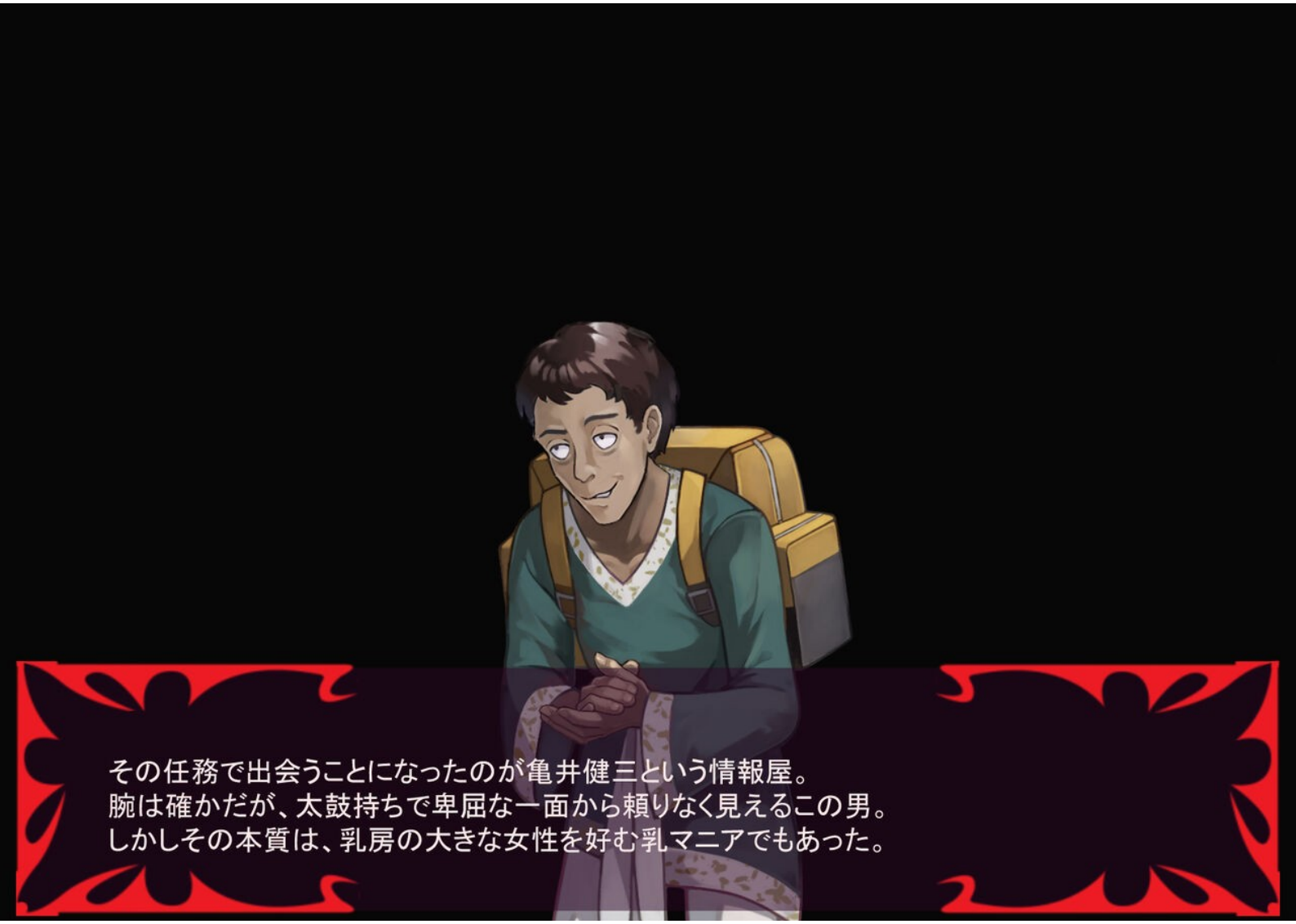

ガチャ‥ガチャ‥。


魔夜基子
「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」


翌日、10月17日5時37分、基子帰宅……。



◇あらすじ
便利屋として活動する最強（最胸）のエージェント魔夜基子。
2児の母となり、エージェント業の引退を考えていた基子に大きな依頼が舞い込んできた。


その任務で出会うことになったのが亀井健三という情報屋。
腕は確かだが、太鼓持ちで卑屈な一面から頼りなく見えるこの男。
しかしその本質は、乳房の大きな女性を好む乳マニアでもあった。


亀井は以前から基子に強い執着心を持っており、その機会を伺っていた。
そして今回、急接近を試みるも見事に振られてしまう。
さらに、任務でのスパイ行為が発覚し、基子からの信頼を完全に失うことに。


焦りを感じた亀井だったが、悪知恵を働かせた弁解によって、
何とか仲間としての復帰を認められる。


そして、今回の重大任務が無事に幕を閉じた後・・・。亀井が再び基子に接近。
基子の欲している情報と協力を提供し、
その代価として遂に基子の豊満な肉体を貪ることに成功する。


ベッドの上で基子は、本当の亀井健三を知ることになったのだ・・・・。